

中学生 中国語・日本語スピーチ大会

11月19日(金)に、中学生 中国語・日本語スピーチ大会が行われました。この大会は、「将来、日本と中国の懸け橋になる子どもが育ってほしい」という願いを込めて、上海日本人学校中学部で毎年行われている行事です。1997年に日中国交正常化25周年を記念して始められ、今回の大会で24回目を迎えました。通常は、体育館で多くの来賓をお招きして盛大に行われる行事ですが、昨年度は、コロナ禍の影響により開催することができませんでした。現在もまだまだ防疫体制の厳しい状況が続き、対面での開催が難しい中、日本と中国の絆を大切にしたいという強い思いのもと、今年度は、オンラインで開催しました。

現地の中学校である「上海市甘泉外国語中学」、「上海外国語大学附属外国語学校」、「上海外国語大学附属外国語学校東校」の代表生徒が日本語でスピーチを、日本人学校の生徒が中国語でスピーチをします。スピーチ内容は自由ですが、現地の生徒は日本のアニメを見て考えたことや、日本へ旅行した時に感じたことを話す生徒が多く、日本人学校の生徒は、上海の生活でのエピソードや思いを話す生徒が多いです。日本人学校からは15人、現地校からは13人がスピーチしました。

上海には、外国語を専門に学ぶ中学校がいくつかあります。もちろん通常の中学校で学習する内容を履修した上で、さらに自分が専攻する外国語を学習します。このスピーチ大会に参加した現地校の生徒は、日本語コースの生徒たちです。とても上手な日本語で、びっくりします。幼い頃から日本へのあこがれをもち、日本語を勉強したいという強い思いをもって、実際に日本語を勉強していることに、日本人としてとても嬉しく、気持ちが熱くなります。

この大会は、上海で両国の中学生が意見交流を図る貴重な場です。お互いが相手の言語で、自分の考えや夢を豊かに表現することは、相互理解のみならず互いの伝統・文化を学び尊重することに繋がります。そして、身近な隣国である日本と中国が互いの絆を強め、より親交を深めていけたら、両国の幸せに発展します。参加した日本人学校の生徒と現地校の中学生が、将来の日本と中国の友好のさらなる進展の担い手として活躍してほしいと思います。



開会式の様子
スピーチ発表は事前に動画を撮影し、それを各学校、各教室に配信しました



発表した中学部の生徒たちと校長先生、教頭先生
指導して下さった中国語の先生